

## 兵庫県南部のフサモとオグラノフサモ

著者	角野 康郎
著者別表示	Kadono Yasuro
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	36
号	2
ページ	75
発行年	1988-12-25
URL	<a href="http://doi.org/10.24517/00056010">http://doi.org/10.24517/00056010</a>

Japan. As a result, *U. tenuicaulis* was recorded from 63 localities and *U. vulgaris* var. *japonica* from only one locality. Judging from the present result and other information so far available, it

seems that *U. tenuicaulis* is common and *U. vulgaris* var. *japonica* very rare in southwestern Japan.

(Received June 11, 1988)

○ 兵庫県南部のフサモとオグラノフサモ (角野康郎\*) Yasuro KADONO\*: *Myriophyllum verticillatum* L. and *M. oguraense* MIKI in southern part of Hyogo Prefecture.

兵庫県東播磨地方のため池の水生植物について報告した際、12ヶ所の池からフサモを記録した(角野, 1984)。しかし、その後の調査で、この中にオグラノフサモとすべきものが含まれていることが判明した(角野, 1985)。そこで兵庫県南部に調査範囲を広げて、16のため池でフサモ類似植物の再検討を進めてきた。その結果、フサモであったのは3ヶ所にすぎず13ヶ所がオグラノフサモと確認された。そこで(角野(1984)の Fig.25を訂正し、正しい分布図を図1に示す。証拠標本は、神戸大学教養部生物学教室に保管してある。

オグラノフサモは、その正体がよく理解されないまま稀産種と思込まれているようだが、当地方ではむしろフサモのほうが少ないことが明らかになった。私は日本におけるフサモ属植物の分布図を作成すべく資料の検討を進めているが、西日本に関する限りフサモよりオグラノフサモのほうが多いようである

フサモとオグラノフサモは、花あるいは殖芽を欠いた状態では今のところ識別の決め手を欠く。従来フサモと同定されてきた標本の中に、かなりオグラノフサモが含まれていると思われるので読者の注意を促したい。両種の差が最も顕著に現れるのは殖芽(越冬芽)の形態である(図2)。フサモの殖芽は長さ3cmまでで先のほうが太い。一方、オグラノフサモの殖芽は3~8cmの棒状である。これらの特徴は秋から冬にかけて産地を訪れるか、便法として夏に採った材料を冬まで栽培することで確認できる。

#### 引用文献

角野康郎. 1984. 兵庫県東播磨地方におけるため池の水生植物. 植物地理. 分類研究 32: 127-135.

——. 1985. 兵庫県東播磨地方の水生植物追記(1). 水草研会報(19): 9-10. (Received June 13, 1988)

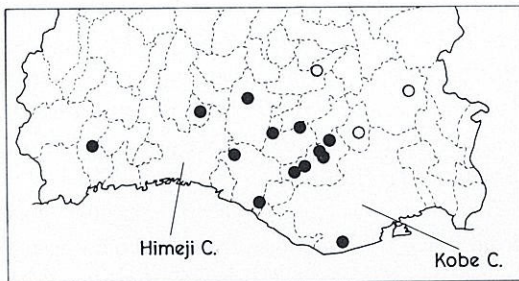


図1 兵庫県南部におけるフサモ(○)とオグラノフサモ(●)の分布。

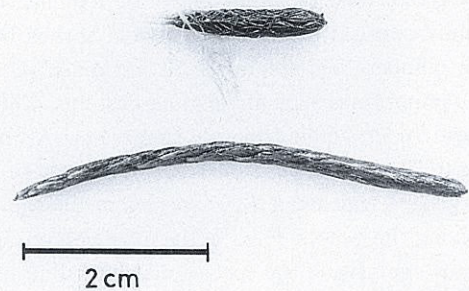


図2 フサモ(左)とオグラノフサモ(右)の殖芽。

(\*〒657 神戸市灘区鶴甲 神戸大学教養部生物学教室: Department of Biology, College of Liberal Arts, Kobe University, Nada, Kobe 657)